中学校 × 国語

国語どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。



変わる所 **4項目**　解説PDF **1件**

10秒でいうと

3領域を「話や文章の機能」でつなぐ。知識は「運用しながら」「教養として」深める2面に

中学校も、話す・聞く、書く、読むを「話や文章の機能」（仮称）でつなぐ方向です。「思考力、判断力、表現力等」は、文章の種類と考え方をひとまとまりで示す案です。評価は、途中の見取り（形成的評価）を重くするとされています。教科書は、中心になる「基幹教材」と、調整できる「関連教材」を分けることが考えられています。

どこが変わる？現行⇔次期（中学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

国語の「見方・考え方」

現行

「言葉による見方・考え方」として、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味・働き・使い方などに着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「様々な事象を表す**自他の言葉**を」、その意味や働き、使い方に着目して吟味し、「**多様な立場や考えを理解して**、**よりよく伝え合おうとする**こと」と、より短く示す（案）。

P132 ※次期の全文は資料編m2 P119（国①-1）

「思考力、判断力、表現力等」の学習過程

現行

領域ごとに学習過程が違い、細かく分かれている（例：「読むこと」は「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」など）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

領域どうしでそろえる。話す・書く＝「**考えの形成**／**表現・推敲**」、聞く・読む＝「**構造と内容の理解・解釈**／**考えの形成**」、話し合う＝「**考えの形成**」。

P129 P134

言語活動例・指導事項の示し方

現行

学習過程ごとに細分化した事項と、3領域別・話や文章の種類別の言語活動例を別々に示している。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**話や文章の機能**」（仮称）を軸に、扱う話や文章の種類と、思考・判断・表現の要素を一体にした「**一括りの事項**」として示す。

P129 P134 P138

「知識及び技能」の示し方

現行

個々の事項が独立して並ぶ（例：「漢字の読みと書き」と「漢字の偏やつくり、由来や特質」が別の内容）。どの知識を活用重視にし、どれを取り立てて学ぶのかが明確でない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「(1)**運用しながら深める**事項」と「(2)**教養として深める**事項」に分け、「**事項のまとまり**」で構造的に示す。漢字の読み書きと漢字の構成などは一つの事項に統合。

P129 P135 P138

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの中学校の国語の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **国語編**
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

学習指導要領の本文

PDF **中学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

中学校の国語の指導案（試案）



中 国語 2年

意見文を書く

本時のねらい 反対の立場の意見を想定し、自分の根拠が適切かどうかを吟味しながら、意見と根拠、予想される反論への答えの関係がはっきりした構成メモ…

指導案を見る →

もっとくわしく

国語の変更点（くわしく） **新旧比較（全校種）** **中学校の先生へ**
資料室（中学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。**P○** は本体PDFのページ、**資料P○** は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。